



専業主婦から
NPO代表理事・大学講師へ
わたしをつくる、仕事をつくる、
社会をつくる。

なでしこカ

Power of Nadeshiko

渋谷さんが女性グループの活動を通してNPOへ参加した30年前。今は死語の「女性の社会進出」がめずらしい時代だったが、NPOで多彩な活動を行いながら、労働法と出会い大学院で学んだ。現在は大学講師となり多くの著書を執筆、公所やジェンダーを学ぶ団体での会議や講演会などに招致され、後進の育成にも力を注いでいる。

官公署からの招致も多い大学講師

渋谷さんは現在、労働法やジェンダーの大学の非常勤講師として活躍中だ。著書も多い。愛知大学では「ジェンダー論」「NPO論」「市民参加論」「ソーシャルビジネス論」、中京大学と日本福祉大学では「労働法」、椋山女学園大学では「NPO論」の講義を行う。21世紀職業財団の客員講師でもある。「気づき」から「理解」「行動」へと促す講義は学生からも注目され、愛知大学での「ジェンダー論」の講義は男女の関係なく人気を集める。受講希望者が200人を超え、抽選で受講学生が決まってくる。毎回の講義では、学生が提出するコメントシートに自分自身の考えを書き、次回にフィードバックする時間をとっているとのこと、教える側が受講学生の考えていることをリアルタイムで把握している。

始まりはNPOでの活動参加

労働法一筋に見えるが、渋谷さんのスタートはNPOでの活動である。現在も、NPO法人参画プラネットの代表理事としても活躍。講師とNPO活動の両方の経験が長いため全国から招致され、令和6年の一年間だけで講演会や会議などで33カ所を訪れた。

多くの団体の審議会委員等も務めており、官

公署との結びつきもある。日進市では「男女平等推進審議会」会長および「苦情処理委員会」委員、一宮市では「男女共同参画推進懇話会」会長、瑞浪市では「男女共同参画社会推進会議」座長、名古屋市では「男女平等推進会議」委員を務め、「男女共同参画研修」や「ジェンダーに関する講演会（女性の活躍推進、ハラスメントに関する講演など）」を行う。二人の子育て経験もあるため、一宮市では「子ども・子育て審議会」の副会長となっている。またジェンダー学で知られる「一般財団法人 上野千鶴子基金」の理事を2023年から務め、子育てひろばを運営している「一般社団法人はっぴーひろば」の理事、「国際女性の地位協会」の理事、「公務非正規女性全国ネットワーク（はむねっと）」監事など活動は多岐にわたる。幅広いジャンルから必要とされるのは、渋谷さんがNPO法が成立する1998年より以前から様々なNPO活動に携わり、NPO活動と労働法の両方に長い間取り組んだことが大きい。

多彩な働き方が幅広い仕事につながり

渋谷さんは横浜生まれ。大学を卒業後、当時人気のリース会社に就職、結婚・出産を経て「いずれ復帰するつもり」で退職した。「ワークライフバランス」という言葉もない時代。